

1 学校評価（児童・保護者・教職員）アンケート結果

- ・ 別紙資料を参照しながら以下をご覧ください。

2 学校評価（自己評価）

船引南地区 CS 目標

豊かな心と確かな学力を身に付け、
夢に向かって取り組み続ける子どもの育成

田村市立船引南小学校教育目標

- （夢）目標をもって自ら学ぶ子ども
- （愛）さわやかで、思いやりのある子ども
- （自立）健康で、たくましくやりとげる子ども

(1) 全般を通して

（※アンケート問 1 ～ 2）

児童の多くは、楽しく学校生活を送っていることがうかがえる。統合初年度であり、年度当初はこれからの学校生活に対する不安や戸惑いを抱いている児童がいることを前提として、教職員は児童一人一人に心を寄せて接するよう心がけてきた。児童一人一人は、かけがえのない存在である。本調査の結果は、教職員が児童一人一人に正面から向き合い、心を寄せながら、どうすれば目の前の児童がよりよく生きる力を高めることができるのかに努めてきたことへの評価と受け止めている。

将来の夢や目標に関しては、多くの児童が将来の夢や行事等に対するめあて・目標をもって生活していることが表れている。ただ、昨年度にも増して学校（児童・教職員）と家庭（保護者）のポイント差（受け止め方のギャップ）が広がっている。学校からの情報発信の工夫が求められるとともに、家庭においても親子のコミュニケーションを図る場を設けるなど、学校生活を話題にした児童の思いの共有に努める姿勢も必要である。

〈学校運営協議会より〉

- ◎ 統合初年度ながら楽しい学校生活が送られている様子が伺え、地域の一員としてとても喜んでいきます。
- 学校生活の中のいろいろな体験や活動で「～してみたい」「やってみたい」ことが増え、それが夢や目標につながればいいと思います。
- △ 小・中のうちから、将来の職業や生き方を深く学べる学習や体験が多くできればよいのかと思います。子どもたちには、将来をイメージするのは難しく、どのような職業があるのかも分からない状態だと思います。学校や家庭で小さいうちから自分の将来をイメージさせられれば、夢や目標を持つことにつながるのではないかと思います。
- △ 夢や希望がしっかりあるというのに乏しいのは、コロナの影響などがあるのか、心配な面もあります。
- △ 将来の夢や目標については、とりわけ高学年からはしっかり考えさせたいです。「○○になりたい」というシンプルなあこがれに留まらず、その夢を実現させるためにどのような進路選択をする必要があるかについて具体的な学習の場を設定したり、それらを保護者と共有する機会をもったりすることも必要なのではないかと考えます。

(2) 学習面について

（※アンケート問 3 ～ 6）

『自ら考え、ともに学ぶことで、学ぶ喜びを感じている子どもの育成～「読み解く力」と「伝える力」の育成を目指して～』を本校の教職員研修のテーマに掲げ、一年間取り組んできた。「自ら考え、ともに学ぶことで、学ぶ喜びを感じている子ども」を育てるためには授業改善が喫緊の課題であるととらえ、県施策「算数・数学授業づくり支援訪問」を活用して県教育庁義務教育課指導主事を講師に

招聘した授業研究会を行ってきた。授業研究会を通して①他者との対話を通したかかわり、②子どもの学びの過程の見取り方、③子どもの言葉が積み上がった授業、④まとめをしてからめあてに立ち返ることによる、本時の学習の定着化、⑤統合と発展が繰り返される授業の5つの授業改善の視点を得た。授業の中では、基礎的・基本的な学習内容の問題を解き、その考え方を活用した発展的な問題にも取り組んでいる。授業改善に取り組んでいる只中であるので、常に子どもの心に寄り添いながら、子どもの学びを支えていくことに努めている。

家庭学習への取り組みに関しては、学校と家庭の連携をさらに強化していくことが求められる。発達段階にもよるとは思うが、小学校段階では家庭学習を「子どもの課題」ととらえるのではなく「家庭の課題」ととらえ、取り組みの内容を確認することで、子どもの学習状況を把握したり、称賛したりする機会を生み出すことができる。

読書に関しては、著しく評価が下がっている。本や新聞など、活字にふれる日常生活の環境づくりが必要である。読書習慣の形成の背景には、メディア利用の実態が影響していることも推察される。学校でも家庭でも、新聞の見出しだけ読むようにする、絵本を開いてみるなど、活字と出会う機会を意図的に創出していくことが求められる。

〈学校運営協議会より〉

- 家庭での学習時間も大切ですが、集中して短時間で行うのもいいと思います。小学生での長時間の集中は難しいと思います。
- △ 児童、保護者、教職員ともに読書の習慣化について低評価です。読書の入り口は読み聞かせなので、朝読の活動に加え、学校全体として、学年を問わず読み聞かせの機会を数多くもつことが大切ではないでしょうか。
- △ メディアの普及で本を読むという習慣がなくなっているように感じます。メディアを利用して読むなどの方法も必要なのではないでしょうか。
- △ 小学生のうちに読書を積極的にすることによって、中学校への学習に影響があるので（読解力・語彙力等）小学校のうちに読書習慣をつけることが大事だと思います。

(3) 礼儀・思いやりについて (※アンケート問7～9)

あいさつに関しては、「自分から進んで」に課題がある。だからといって、あいさつに特化した指導では、この課題は乗り越えられないと考えている。「自分から進んで」行えるような関係づくりが根底に必要である。そのためにも、学校・家庭・地域においてコミュニケーションを活発にしていけるような工夫に努めたい。まずは大人から子どもに声をかけることで関係性を編み込んでいく。互いの関係性が編み込まれていくことで、子どもは「自分から」行動を起こすきっかけを得ていく。「自分から」行動する人材を育成するための第一歩を、確実に踏み出していきたい。

社会のきまりに関しては、良好な評価となっている。今後も保護者及び教職員は、児童の姿を見取り・意味づけ・価値づけ・称賛していくことで、さらに実践力が強化された児童の育成に努めたい。

話の聴き方に関しては、コミュニケーションの在り方をさらに工夫していきたい。大人から子どもに、他者意識を働かせたり、自分事として見つめ直したりするような問いかけをすることを通して、児童の心を耕していくとともに、児童相互においても他者意識を働かせることや物事を自分事としてとらえるようなコミュニケーションの質的向上を期待したい。

〈学校運営協議会より〉

- ◎ あいさつやきまりを守ること、よくできていると思います。
- 質問事項の結果を見る限りでは、非常に南地区らしく素晴らしいと感じます。ただ、最近は親の送迎等で、地域住民と接する時間が少なくなっているのでは、実際知らない人と下校時刻などで接した場合はどうなのでしょう？（悪い意味ではなく、世の中の情勢があるので…）
- △ 保護者、教職員が気もちのよいあいさつができているように思えるような児童が増えるように、周りでも指導していかないといけないと思います。
- △ たまに、周りから先生の児童生徒への礼儀・思いやりが足りないのではないかなという話を聞く時があります。十分に気をつけているとは思いますが、児童生徒だけでなく先生も一緒に礼儀・思いやりを学べる環境が大切なのだと思います。

(4) 健康・運動について (※アンケート問 10 ～ 13)

規則正しい生活習慣の形成に向けて、保護者が積極的に関与している実態が表れている。一方で、児童の評価は保護者の評価より約 10 ポイント低くなっている。児童の実態として、メディアとの付き合い方に課題があると自覚している児童も少なからず見受けられるため、家庭においてより丁寧な子どもの観察・支援が必要な面も推察される。

食事と運動に関しては、学校と家庭とのギャップが依然として大きい。学校給食では、児童は苦手なもの（食物アレルギーを除く）もできる範囲で食べる努力をしている。教科体育の運動では、一人一人が活動のめあてをもって運動に親しみ、体力及び技能の向上を図っている。このような学校での取り組みを、より効果的に家庭に周知していく工夫が必要である。学校での学びや経験が家庭生活を豊かにしたり、家庭での学びや経験が学校生活を豊かにしたりする相互補完の関係を築けるように努めたい。

メディアの利用に関しては、各家庭のきまりにもとづいて行われることが重要である。生活習慣の形成においても、児童自身がメディアとの付き合い方を課題と自覚している実態があることから、きまりについて保護者のチェック・管理の在り方を改めて確認する必要がある。ノーメディアデーに保護者がメディアを利用しているという報告がある。各家庭において、自律した取り組みを期待したい。

〈学校運営協議会より〉

- ◎ ほぼ健康的な生活を送れていると思われます。
- ◎ ほとんどの児童が規則正しい生活をしているようです。
- △ メディアとの付き合い方は、本当に難しい問題です。
- △ バランスのよい食事、メディアコントロールについてはとりわけ保護者の評価が低いようです。学校における取り組みについてこれまで以上に積極的に発信するとともに、家庭での取り組みの成功事例を共有することなども試みてはどうでしょうか。
- △ メディアコントロールは大人の自覚も必要とつくづく考えます。
- △ 外での遊び（活動）が少なくなっていることが残念だ。

(5) 学校運営等について (※アンケート問 14 ～ 23)

学校運営に関しては、おおむね高い評価をいただいたと考えている。学校としては、「努力を認めて生かす」について、「自己存在感」「自己有用感」の観点から改めて見つめていきたい。人は他者（ひと・もの・こと）とのかかわりを通して、自己の存在を実感する。学校では多様なかかわりの機会を設けることで、児童が自身の興味・関心や得手・不得手等に「気づく」環境づくりに努めている。教職員は、児童の「気づき」を見取り、「気づき」に意味を与え、「気づき」の価値を伝え、「気づき」の発展や実践化に向けた励まし・称賛をすることで児童の存在感を強化している。その中で児童は、自分は学級・学校（広義の社会）にとって「役に立てる」存在であると自覚することで、自身の有用

感を高めていく。よりよい学校運営をめざすに際し、「自己存在感」と「自己有用感」のスパイラルの質的向上を図ることが求められる。そのためには、教職員の児童を見取る「目」をさらに高めていくことが必要である。かけがえのない児童一人一人が自信をもって生活することができるような環境づくりに一層取り組んでいきたい。

〈学校運営協議会より〉

- ◎ 大変よく運営できていると思います。
- ◎ いじめのない、安全な学校生活が送れていると思います。
- ◎ 学校は、家庭や地域との連携を適切に行っていると思います。
- 保護者の意見を参考に子どもたちが過ごしやすい学校運営をしてほしい。
- 今後も学校美化・安全管理で気づいた点を相談しながら、活動を支援していきたいと思います。
- HP による発信の基本姿勢について、年度初めに保護者に周知することが大切かと思ひます（特色ある取り組み、リアルタイムでお知らせする必要性の高いもの etc.）。ともするとアップ数の多さ＝学校の熱心さと受け止められることがあります、アップのためにはかなりの時間を要するので、限られた人員で教育活動を進める上では、おのずと限界があると思ひます。まずは、先生方が児童生徒と向き合う時間をしっかり確保することを重視してほしいと思ひます。
- △ 掃除の時間を大切にしてほしい。自分たちの使った場所をきれいにし、感謝しながら使うことは大事なことはないか。
- △ デリケートな性の悩みに対して親身になって対応していないと思ひている児童がいることへの対応が必要なのかと思ひます。
- △ 学校と家庭が意見交換しやすい良い環境の学校だと思ひます。ですが、いじめや悩みについての項目に少し認識にズレがあると思ひます。お互いがきちんと納得できる話し合いの場があるとよいと思ひます。

(6) 総括

アンケート全体を通して、いずれの項目でもおおむね高い評価をいただいたことは、「地域とともにある学校」をめざし取り組んできた学校運営への評価であると受け止めている。今後も関係諸機関及び地域人材とのつながりと大切にしながら、地域にとってよりよい学校の在り方を探っていく。

〈学校運営協議会の評価（学校関係者評価）を受けて〉

（夢）目標をもって自ら学ぶ子どもを育むために

- ◇ 夢や目標については、「なりうる自分」を具体的にイメージし進路選択が明確になるようなキャリア教育を推進していく。
- ◇ 家庭学習については、時間の多少よりも自宅に帰って学習する習慣形成に努めていく。
- ◇ 多様な体験活動を日常生活に生かすためのふり返りを積み重ねていく。

（愛）さわやかで、思いやりのある子どもを育むために

- ◇ 他者と有機的な関わりを醸成するためのあいさつやコミュニケーションについて、学校と家庭が連携して取り組んでいく。
- ◇ あいさつや礼儀については、子どもとともに教師も学ぶ姿勢をもち、声のかけ方や子どもへの寄り添い方を改善していく。

（自立）健康で、たくましくやりとげる子どもを育むために

- ◇ 現在の小・中学生は、その生い立ちにおいて幼い頃は震災の影響で、最近ではコロナの影響で外遊びが制限されたり、他者との関わりが制限されたりしてきた背景がある。これを改めて認識した上で、メディアの効果的な活用の仕方を学校と家庭で学んでいきたい。
- ◇ 肥満傾向児が増加傾向にあるので、教科体育での運動量を確保するとともに、業間体育活動にめあてをもって取り組んでいく。